令和8年度

生活学校・生活会議運動全国大会



写真右から）花木啓祐・（公財）あしたの日本を創る協会会長、榊誠・（公財）あしたの日本を創る協会理事長、栁澤泰洋・内閣府大臣官房総務課制度室長







あしたの日本を創る運動 推進功労表彰

特別功労表彰



石川県　虎井紀美子
野々市生活学校（代理）



東京都　宮代幸枝
長谷戸生活学校



茨城県　関澤サツ子
延方生活学校

内閣官房長官表彰



福井県　齊藤博子
前福井県生活学校
連絡協議会理事



神奈川県　小林幸江
かながわのあすを築く
生活運動協議会副会長

会長表彰（個人）



愛知県　服部富久美
愛知県生活学校
運動推進協議会副会長



神奈川県　渡邊正子
かながわのあすを築く
生活運動協議会会員



神奈川県　飯田あや子
かながわのあすを築く
生活運動協議会会員



宮城県　後藤道子
仙台市南光台東
生活学校委員長



写真は表彰式に出席された方（役職は4月1日時点）







令和8年6月30日、東京都新宿区のホテルグランドヒル市ヶ谷において、「令和8年度生活学校・生活会議運動全国大会」が開催された。全国各地の生活学校・生活会議などの地域活動に取り組む団体の方や行政関係者など、約90名が参加した。

開会行事では、公益財団法人あしたの日本を創る協会の花木啓祐会長より主催者挨拶、内閣府大臣官房総務課制度室長・柳澤泰洋氏より来賓挨拶があった。

続いて、あしたの日本を創る運動推進功労者の表彰が行われた。今年表彰を受けた、内閣官房長官表彰2名、特別功労表彰6名、会長表彰（個人の部）6名のうち、表彰式には計9名の方が出席された。

続いて基調講演が行われた。立教大学名誉教授・公益財団法人ミダス財団シニアフェローの萩原なつ子氏より「〝戦略的おせっかい〟で地域を笑顔に！SDGs（持続可能な開発目標）と地域活動について」をテーマに講演があった。行き当たりばったりではない「戦略的おせっかい」をキーワードに、SDGsの先を見据えた「ウェルビーイング」な地域づくりについての提言がなされ、まず、市民活動助成の歴史（トヨタ財団の市民研究コンクール）、介護保険制度、「健康な地球のための世界女性会議」（1991年11月・米国マイアミ開催）での経験などが共有された。さらに、ネットワークとノットワーク、シェアリングエコノミー、社会的処方、求援力と受援力、形式的平等と実質的平等、チャールズ・ハンディの「人生の4つのワーク」など、具体的な地域づくりのヒントの紹介があった。また、生活学校やNPO法人などが果たすサードプレイスとしての役割について











詳しく提示がされた。

続いての全体会では、あしたの日本を創る協会の榊理事長、藤田事務局次長より、令和元年度から7年度まで実施した全国運動「食を通じた子どもの居場所づくり」についての報告があった。コロナ禍で対面活動が制限されたときには、子ども食堂を弁当配布に切り替えるなどして対応し、コロナ終息後は、年間の全国運動取り組み数が100件を超えたことなどが報告された。

その後、令和8年度からの新たな全国運動「脱炭素化の取り組み」について、分科会が開催された。「3R」の概要の説明と共に、食品ロス削減家計簿手帳の配布、イベントの食器の再使用、キエーロ・コンポストの活用、海洋プラスチックごみ削減、海岸や河川清掃など具体的な活動について説明があった。参加者からは様々な意見や質問、活動のアイデア等が寄せられ、活発な協議の時間となった。

夕刻からの交流のつどいは、新規開設生活学校のメンバーによる自己紹介が行われるなど、活気あふれる交流の場となった。

参加者の一人、東京都・初台生活学校の小竹さんは「全国各地の生活学校の活動状況を詳しく知ることができる点や、他県の参加者との交流が毎度の楽しみであり、分科会での皆さんの話も参考になった。初台生活学校のさらなる活性化につなげたい」と話していた。

大会の最後には「がんばろう！」と参加者一同声を合わせた。全国運動に取り組む仲間同士で士気を高め合い、活力あふれる一日の締めくくりとなった。


榊誠
藤田真之




瑠璃西の間
全国大会
分科会懇
HOTEL GRAND HILL
ICHIGAYA





















